HIDEAKI FAXレポート
2006.01.22
5-18 通算81

発行 伊藤ひであき事務所　豊橋市東田町西前山144-14 TEL 0532(53)3483 FAX (53)3809
EMAIL：hide@apli.co.jp インターネットホームページ　http://www.itouhideaki.com/

我ら団塊の世代、大切なことはなにか

●戦後60年の変革の演出者

私たちは戦後の第一次ベビーブーム（昭和22年から24年）に生まれたいわゆる「団塊の世代」の第一陣であり、来年（2007年）以降に定年退職年齢の60歳に達し、職場から引退し始める。現在約680万人といわれるこの団塊の世代が他の世代に比べ突出して多いがゆえに年金給付増大などによって社会保障制度に大きな影響が及ぶと懸念されている（2007年問題）。

私たちは入学と同時にすし詰め教室で学び、高校入試、大学入試で教育を揺るがした。多感な中学時代には日米安保闘争、高校時代にはベトナム戦争、大学・青春時代は大学紛争と、否応なしに「自己否定」と「反戦・平和」を旗印に社会変革を進める側に回った。

サラリーマン時代には、高度経済成長の担い手として、またドルショックや石油ショックの逆風を受けながらも「企業戦士」「モーレツ社員」と揶揄されながら奔走し、数の多さでいや応なく年功序列や終身雇用など日本型雇用の一角を突き崩してきました。

バブルの崩壊、そして定年まじかに控えたこの4、5年、リストラの嵐が襲い、右肩下がりのまま我ら団塊の世代は「老い」の入り口にさしかかる。

戦後60年という。団塊の世代がその戦後60年の変化の演出者を努めてきた。そして、ふと時代を見渡すと「人間がそこまでするか」と怒りのたぎる事件が相次いでいます。青春かけて走りぬいてきた60年かけて「私たちは何をしたのか、どこへ来てしまったのだ」と思い屈する最近です。

●多くを得、多くを失った

「ニュースなんかもう見たくない」とこぼす人もいるほどの嫌な社会です。

幼子が、虐待死させられる。その哀れさに胸が裂けます。下校途中に殺されたいたいけな少女たちの無残さには余りあります。遺族の悲嘆いかばかりか。

弱者だから襲う。そんな犯罪の多さに、いたたまれなくなります。インターネット上にゆがんだ内心をさらし、誘いの魔手を伸ばし、さながら能面のような平然とした顔で凶行に及ぶ。

最も尊重されるべきは人間の生命であったはずです。弱き者を守ることだったはずです。なのに、ダイヤ優先で乗客を忘れたためにあのＪＲ福知山線の大惨事。

儲けるために、倒れても構わぬマンションやホテルを建てて売りさばく。耐震偽装事件は、市場万能主義、規制緩和の流れに乗って強者の欲求は肥大化し、「利己主義ここに極まれり」の象徴のように思われます。

多くを得、多くを失ってもきました。貧しさを脱し飽食にまで至りました。カー・クーラー・カラーテレビの３Ｃをはじめに、次々と手に入れて充足のあげくは廃棄物で埋まる暮らし。戦後の焦土で生を受けた私たちはこんな社会を築くために汗してきたのでしょうか。

●セーフティネットを強固に

大切なのは何か。一番大事なことは何なのか。それが分からなくなった人、考えようともしない社会がメディアで増幅されているように思えてなりません。

今や、富める者はますます富み、貧しきものはますます窮していく新たな階層格差が広がり、「危うさ」も露呈しています。「まじめに働く人が報われる社会」のためにはそのセーフティネットを強固にし、地域社会に構築しなければなりません。

「政治とは、情熱と判断力の二つを駆使しながら、堅い板に力を込めてじわっじわっと穴をくり抜いていく作業である」（マックス・ウエーバー「職業としての政治」）ならば、時代変革の情熱をたぎらせ、今年もまたこの道を黙々と走り抜く決意です。（END）